

令和4年2月7日

関係者の皆様へ

大阪府立西浦支援学校

## 令和3年度 学校教育自己診断アンケート（報告）

### 【保護者アンケートの方式について】

- （アンケート方式）フォーム作成ツールアンケート（メール連絡網を活用しての回答）
- （設問数）全27問
- （設問カテゴリー）
  - 子ども・保護者の支援に関すること
  - 教育活動に関すること
  - 学校運営に関すること
- （回答方法）Aよくあてはまる Bややあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない Eわからない
- （分析方法）A/B・・・肯定的意見 C/D・・・否定的意見 E・・・わからない

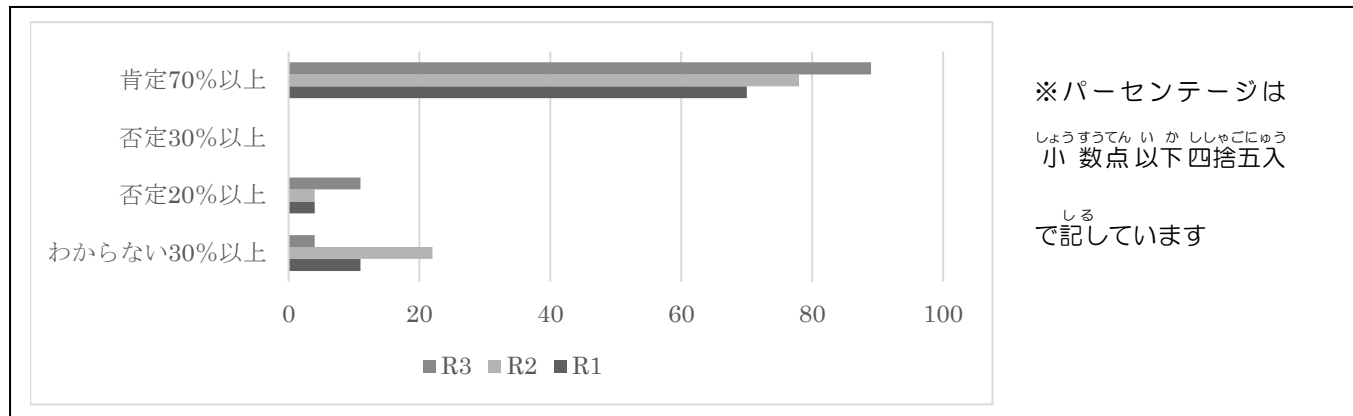
### 【回答率と回答傾向について】

本調査は、令和3年10月18日から10月27日の期間に実施し、保護者からの回答率はおおよそ30%強でした。回答率の減少理由としては、昨年度までのアンケート用紙による回答方法から、スマートフォンやパソコン等で回答できるメール連絡網とフォーム作成ツールを複合的に活用したアンケートに変更したという点にあると考えられます。

一部、部活動についての設問について、否定的意見の割合と「わからない」の回答が増えましたが、これはアンケート方式の変更によるシステムの都合上、これまでの部活動参加者のみの回答から、全員が回答の対象者となってしまった為、回答数値に動きがみられたと推察されます。

しかしながら、全体の回答傾向は昨年と比較してもほとんど変わりはありませんでした。

### 【意見の分布について】



### 「肯定的意見」について

全項目における「肯定的意見」の割合が70%以上の設問は、全27問中24と全体の約89%で、昨年度比10ポイントの上昇でした。また、肯定的意見の割合が90%以上の設問は昨年と同様で全27問中9でした。

中でも「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」、「気軽に相談するところを設けている」、「授業のわかりやすさについて」、「意見を聞く機会について」の設問では肯定的意見の割合が昨年度に比べ20ポイント上昇し、いずれの設問も「わからない」の割合が半減、もしくはそれに以上に改善するなど、大幅改善が見られました。

今後も児童生徒、保護者のニーズを把握し地域の皆様の声を真摯に受け止め続けていきたいと思ひます。

### 「否定的意見」について

全項目における「否定的意見」についてはその割合が30%以上の設問は昨年度同様ありませんでした。20%以上の設問は前述の設問以外二つでしたが、その内一つは「他校との交流」25%、もう一つは「相談できるところがある」が22%でした。交流については新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、訪問しての交流ができなかったことが大きく影響していると思ひれます。

また、「相談できるところがある」については今年度より文言をわかりやすく改訂した結果、昨年度の27%から5ポイント改善しての数値となりました。これは「相談や悩みに適切に応じてくれる」の設問で、否定的意見の割合が9%であることから、「相談できない、あるいは相談に乗ってもらえない」ということではなく、様々な相談場所や相談機会の周知不足が要因ではないかと推察されます。今後も丁寧なアナウンスを行い、動向を見守っていきたく思ひます。

### 「わからない」について

全項目における「分からない」の意見の割合が30%を越えた設問は部活動に関する設問だけで、昨年の6から比べると大幅な改善になりました。また、全27の内22の設問について「わからない」の割合が改善されるなど、全体的に大幅改善されました。

### 「必須項目について」

大阪府より各学校に「必ず聞くべき質問」として示されており、80%以上の肯定的評価のものは全9問の内7で昨年より二つ改善しました。特に昨年肯定的意見の割合が若干下がった「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」、「授業のわかりやすさ」の2問について、いずれも肯定的意見のところで触れたように大幅改善となりました。

### 「教育活動に関する項目について」

「肯定的意見」のところでも触れたように、授業に関する設問については質問の文言をわかりやすく改訂したこともあり、肯定的意見が昨年度比27ポイント、「わからない」については26ポイントの大幅改善となりました。

また、児童生徒会活動に関する設問や職業や進路に関連する三つの設問で肯定的意見の割合が上昇し、「わからない」の割合も改善しました。

学部別で見ると職業や進路に関連する三つの設問の肯定的意見の割合は、小中学部で約70~80%、高等部では全て80%以上と学部が上がるにつれ高く出ていることから、今後はより一層、低年齢の内から職業や進路に関する関心が高まるよう、個々の自己実現に向けて丁寧な指導を心がけていきたいと思ひます。

## 「学校運営に関する項目について」

「保護者や地域の意見を聞く」機会についての設問で、肯定的意見が20ポイント、「わからない」で19ポイントの大幅な改善がありました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で学年懇談などの機会が減っている中で、保護者の貴重なご意見や疑問などの思いをできるだけ伺えるよう、保護者参加型の取り組みや保護者アンケートの機会を増やしたことが要因と思われます。今後も、学校運営と本人・保護者の思いに乖離が生じないよう、貴重なご意見を聞かせていただく機会を創意工夫して増やしていきたいと思ひます。

### 「教職員の回答」

教職員アンケート全設問51の内、肯定的意見の割合が上昇した設問が41で、否定的意見の割合が上昇したものはありませんでした。また、肯定的意見の割合が70%以上のものは全体の約82%で、前年度比22ポイントの改善でした。

特に「職員会議をはじめとする各会議」における設問について、ここ2年間の肯定的意見の割合が50%台であったものが今年度は70%台に改善しました。また、昨年度より校内一斉公開授業日を年2回実施し、授業や教材に関わる研究や研修に力を入れてきたこともあり、それに関する設問でも10ポイント以上の改善が見られました。

### 「全体考察」

全体の傾向として、保護者アンケートも教職員アンケートもの肯定的意見の割合が70%を超えたものが増え、（増加率は各項目に記述有）特に教職員アンケートでは肯定的意見の割合が大幅に改善しました。

保護者と教職員で対になっている設問について比べてみた場合、多くの設問について保護者と教職員の意見の傾向は似通っていましたが、昨年度、意見の割合に大きな差のあった相談体制についての設問では、今年度保護者の肯定的意見の割合が大幅改善したものの、まだ教職員との評価に20ポイント以上の開きがあることから、引き続き丁寧な対応と相談場所の情報提供を続けていきたいと思ひます。

また、授業に関する設問については、わかりやすい文言に改訂したことから、保護者の肯定的意見の割合が大幅改善し、教職員の肯定的意見の割合とほぼ同じとなりました。

学校運営に関する項目の教育実践マトリクスについては、懇談でお示しする等で保護者の理解が高まり、保護者の肯定的意見の割合が8割を超えました。学校では今年度、教育支援計画や個別の指導計画など、各様式のシステム改善や、指導要領の改訂に伴う三学部の教育課程の見直しなど、よりよい学習活動の保障及び、保護者との連携に欠かせない重要なツールの改善に全校で取り組みました。教育実践マトリクスについても、より一層教職員の様々な意見を集約し、さらに見直しを進めてまいりたいと思ひます。

また、以下のようなご意見がありましたので、今後の参考にさせていただきます。

#### ○授業や指導に関すること

- 担任以外の授業担当者とも話す機会があれば授業の苦手や頑張ったことがわかり、卒業後の進路についても一緒に考えられる

#### ○進路に関すること

- 本人や保護者の意見をもっと聞き入れてほしい
- 就労情報をもっと教えてほしい

#### ○ホームページに関すること

- ホームページの更新を迅速にしてほしい
- ホームページで普段の様子や学校情報を知りたいので見やすくしてほしい

- ホームページや学級だよりなどで普段の様子を写真などで知れたらうれしい

#### ○その他

- 校内での講演会などを開催してほしい

- 「ココカラ（こころと身体の学習）」について、フランクに相談できるような専門の人を男女で置いてほしい

- すべての学校に看護師を置いてほしい

#### ○学校自己診断について（フォーム作成ツールに変更したことについて）

- スクロールすると回答を間違えやすい

- 読み辛い

- 課外クラブに参加していなくても回答しないと次に進めないなのでシステムを変更してほしい

### 学校運営協議会より

#### 【委員より】

○保護者アンケート項目の「障がい理解」について、これだけ高いポイントが続いている中でも肯定評価が上昇したことはよいことであると思う。保護者の気になる点としては、障がいについてどれくらい理解があるかどうかであると思うので、この点について肯定評価が上昇するということは保護者も安心であると思う。

○ Q、肯定的意見が上昇した項目について、その要因は何だとお考えでしょうか？

A、前年度までは設問の文章が児童生徒本人の主観を問うものがいくつかあり、保護者が判断に困っているのではないかと推察し、今年度対象となる設問について、保護者の普段の観察から判断できるようにと、かたがいぜんくふうで、本人のおおおもひょうかじょうしようを、かほごしやらいごうむすかへ減ってしまったたりした分、保護者からのご意見を少しでも伺うためにアンケートを例年より多く実施したことも要因の一つであると考えられる。